広報ながれやま

平成24年 11/11 No.1299
毎月1日・11日・21日発行

〒270-0192 千葉県流山市平和台1-1-1 ☎04-7158-1111(代表) URL http://www.city.nagareyama.chiba.jp/ ●発行／流山市 ●編集／秘書広報課

市の人口と予算〈11月1日現在〉

人口・世帯（　）内は前月比／前年同月比

合計	＝ 167,340人	（＋156／＋1,321）
男	＝ 83,255人	（＋ 63／＋ 521）
女	＝ 84,085人	（＋ 93／＋ 800）
世帯	＝ 67,297世帯	（＋ 93／＋1,166）

予算

一般会計	＝ 465億 978万9千円
特別・企業会計	＝ 372億 9,561万9千円

特集・流山本町界隈

まちの魅力再生！ 歴史ある街並みを生かして、地域の活性化を

問商工課流山本町・利根運河ツーリズム推進室 ☎7150-6085

かつてみりんの町として栄え、当時の県庁、千葉大学教育学部の前身となる県内初の教員養成所と附属小学校などがあった流山。その中心街であった流山本町界隈（流山1～8丁目、加5・6丁目）は、当時の繁栄の面影が色濃く残るエリアです。時代を感じさせる建造物や史跡が多く点在し、流山の歴史と誇りを再認識できる地域といえるでしょう。

しかし最近では使われなくなった歴史ある建物が取り壊されるなど、変化が見られます。流山市の貴重な財産であるこれらの資源を守るとともに、観光資源として見直し、まちの活性化につなげていこうと、市では昨年度「流山本町・利根運河ツーリズム推進室」を設け、観光資源の開発と活性化の仕掛けづくりに取り組んでいます。

これら4つの店舗は、流山本町に残る明治から大正時代の建物を改装してお店として生まれ変わりました。

古いお茶屋さんの建物を万華鏡のギャラリーとしてオープン

かつて足袋屋だった店舗を改装してイタリア料理店に

ベーカリーとして生まれ変わった、大正期に診療所だった建物

明治時代の蔵をカフェ＋ギャラリーとして改装

11月1日にオープンしました！

蔵のカフェ＋ギャラリー灯環（とわ）

蔵のカフェ＋ギャラリー灯環　☎7158－0221
営業時間／午前10時30分～午後5時　※土・日曜、祝日は午前9時30分～
定休日／月・火曜　※祝日の場合は営業、翌水曜休み

蔵を改装して新規事業

灯　環
秋元由美子さん

まちの賑わいのために物件提供

ササヤ寝具店
田上郁夫さん

市からのサポートが助かりました

カフェをやるのは長年の夢。見世蔵さんを知り、こういう所でお店をやりたいと思ってきました。市に相談したところササヤさんの蔵をご紹介いただき、目をつけていた物件だったのでここしかないと（笑）。

灯りをともしたところに環が生まれる。この蔵から人と人、人とまちとの環が生まれ、大きく広がってほしいという気持ちをこめて「灯環」と名付けました。

まちの活性化につながればうれしいです

この蔵は明治31年（1898年）に、近くにあった呉服店からひき家したもので、建てられたのはもっと以前と聞いてます。ご先祖さまが残してくれたものがこういう形で生まれ変わるとは、感無量ですね。私が子どもの頃はこの界隈には古いお店や建物がたくさんありましたが、それがどんどんなくなってしまう。この蔵を残し、まちの賑わいを取り戻すきっかけになるなら、こんなにうれしいことはありません。

流山本町・利根運河ツーリズム推進事業

歴史的建造物を活用して事業を始める方に、補助金を交付します！

流山本町周辺にある歴史的建造物を活用してギャラリー、店舗運営などの新規事業を始める方に補助金（流山本町・利根運河ツーリズム推進事業補助金）を交付します。これは地域の活性化と歴史的に貴重な建造物の保存・継承を目的としたもので、交付条件や申請方法など、詳細はお問い合わせください。また利根運河周辺についても同様の補助金を交付します。

【対象者】 観光関連事業またはその実施が、観光振興に寄与すると認められる事業を行う個人、および団体

【補助金額】 改装費：経費の2分の1以内（1回350万円上限）
賃貸料：経費の2分の1以内（毎月7万円上限。最長3年間交付）

問商工課流山本町・利根運河ツーリズム推進室☎7150－6085 ID 10926

井崎義治市長からのメッセージ

流山で一番古くて新しいまち「流山本町」

流山本町界隈はその昔、さまざまな商店が建ち並び盛大な市も開かれるなど、周辺の市や町から多くの買い物客が訪れて賑わいました。この地区に、以前の活気を取り戻し、歴史に裏付けされた流山本町の魅力をさらに高めようと、市では現存する歴史的建造物を新たな形で生まれ返らせ、保存するプロジェクトを進めています。

市内で最も歴史があり、古い街並みが残る流山本町界隈で今、新しい魅力が生まれています。

秋の一日、新たな発見を求めて、流山本町界隈にぜひお出かけください。

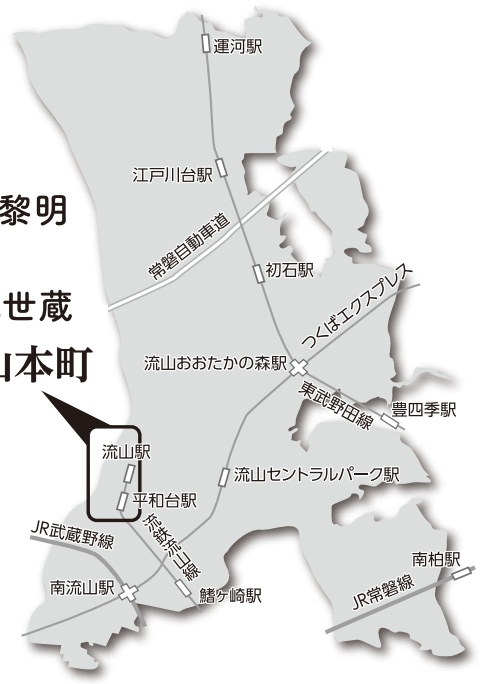
ながぽん歳末キャンペーン

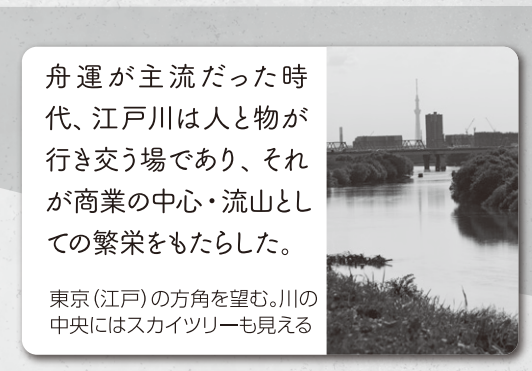
流山商業協同組合では、12月6日～9日にながぽんポイント倍出しの歳末キャンペーンを開催します。詳細は11月21日号でお知らせします。問流山商業協同組合（流山商工会議所内）☎7158－6111

流山本町江戸回廊

モデルコース

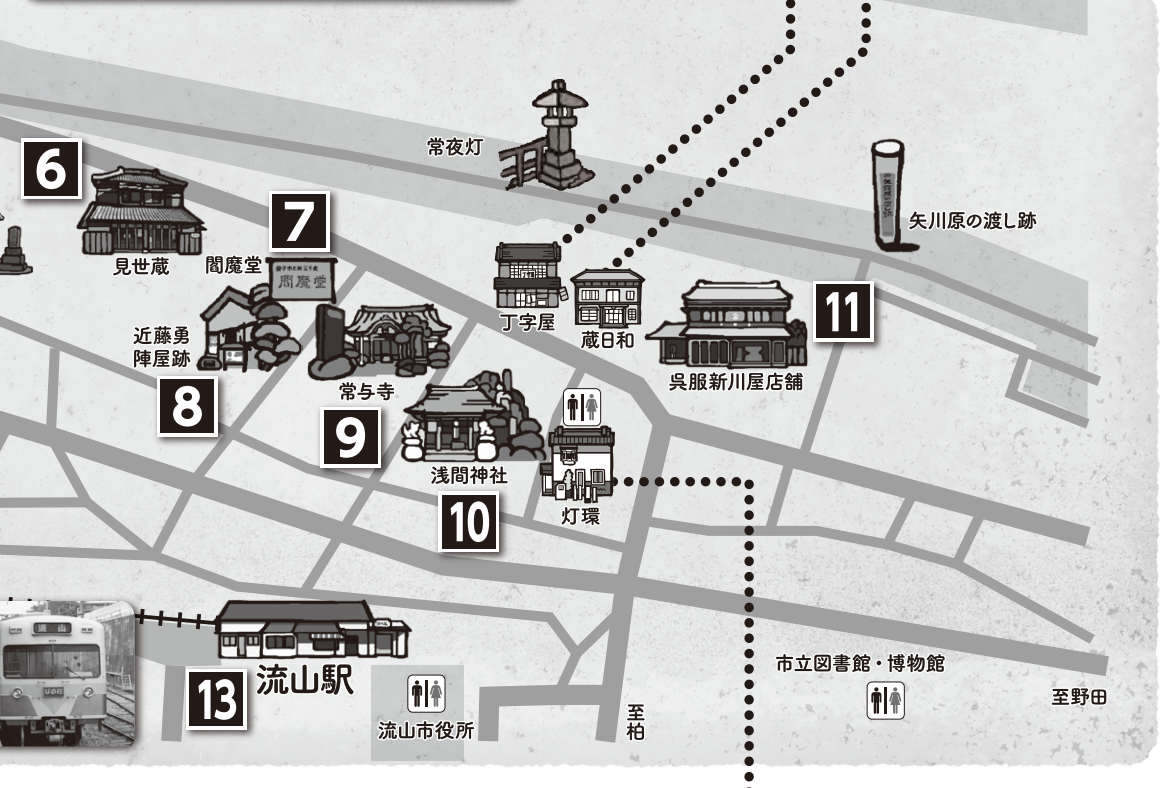
1 平和台駅
2 光明院
3 赤城神社
4 一茶双樹記念館・杜のアトリエ黎明
5 長流寺
6 万華鏡ギャラリー寺田園茶舗見世蔵
7 閻魔堂
8 近藤勇陣屋跡
9 常与寺
10 浅間神社
11 呉服新川屋店舗
12 江戸川
13 流山駅





舟運が主流だった時代、江戸川は人と物が行き交う場であり、それが商業の中心・流山としての繁栄をもたらした。

東京（江戸）の方角を望む。川の中央にはスカイツリーも見える



— ひと休み —

大人気のイタリアンレストラン
丁字屋
11:30〜14:30、17:30〜21:30、月曜定休。祝日の場合翌日
☎7192−7953※スタッフ募集中

店内で飲食もできるベーカリー
蔵日和
9:00〜売り切れ次第終了、月曜定休。祝日の場合翌日
☎7192-7954

— ひと休み —

カフェとギャラリー
灯環
10:30〜17:00 ※土・日曜、祝日は9:30〜
月・火曜定休。祝日の場合翌日
☎7158−0221

ちょっと足をのばして…博物館で流山の歴史を知ろう！

流山本町を歩き、流山の歴史をもっと知りたいと思ったら、博物館に出かけてみましょう。流山の歴史が分かる常設展示を設け、白みりん発祥の地としての流山、流山に残る新選組の資料などを展示しています。

流山市立博物館
住所／流山市加1-1225-6
開館時間／午前9時30分〜午後5時　**入館料**／無料
休館日／月曜（祝日の場合は翌日）、館内整理日（土・日曜を除く月の末日）
※このほか臨時休館はお問い合わせください。
電話／7159-3434 ID 1140

公衆トイレ

「千葉県観光地魅力アップ緊急整備事業」の補助金を使ってつくられた公衆トイレ。蔵のカフェ灯環に隣接し、外観は蔵をイメージしてつくられた。

7 閻魔堂

江戸期の閻魔像を祀るお堂があるほか、閻魔さまの化身である六体のお地蔵さま、講談や歌舞伎に登場する江戸時代の義賊・金子市之丞と恋人の三千歳の墓がある。

8 近藤勇陣屋跡

慶応4年（1868年）に新選組が本陣とした陣屋跡。流山は、近藤勇と土方歳三の離別の地となった。ID 1862

▲陣屋跡をかたどった「陣屋もなか」（1個168円）。薪を使って銅の鍋で煮る自家製餡の風味は格別／和菓子司清水屋（12:00〜19:00、水曜定休　☎7158−0140）

▶陣屋跡そばにある秋元稲荷大明神

9 常与寺

鎌倉時代創建。ここに明治5年（1872年）、県内初の小学校「流山学校」（現：流山小学校）と教員養成を行う「印旛官員共立学舎」（現：千葉大学教育学部）を設置。敷地内には千葉県師範学校発祥の地の碑（左写真）がある。

10 浅間神社

江戸時代初期の創建で、木花開耶姫（このはなさくやひめ）を祀る。神社裏には富士山の溶岩を運んでつくった富士塚があり、県内有数の大きさを誇る。市指定文化財。

▲富士塚の上からお社を望む

11 呉服新川屋店舗

弘化3年（1846年）創業の商家。明治23年の建築である見世蔵（蔵と店舗をかねた建築）は、国登録有形文化財に登録されている。鬼瓦には七福神のうち、商売にちなんだ恵比須・大黒天の装飾が施されている。ID 7796

▲南向きの鬼瓦には大黒天がほほえんでいる

2013年流山探訪カレンダー販売中
市内の美しい風景や名所などを切り絵で表現した、流山探訪カレンダーを販売しています。A3判7枚つづり1部600円。
問流山市観光協会（市役所商工課内）☎7150−6085

特集：流山本町界隈

流山の歴史をひもとく、

江戸川に沿い、江戸との舟運の中継点であった流山本町界隈は、多くの人と物が行き交い、文化が生まれた場所でした。みりんの産地としての繁栄、新選組や小林一茶など歴史を彩る人物が立ち寄り、県内初の教育機関が置かれ、流山の地名発祥伝説の地もここにあります。さあ、歴史をたどって歩いてみましょう。

2 光明院

不動明王を本尊とする。小林一茶の支援者であった秋元三左衛門の墓があり、一茶と双樹（五代目三左衛門の俳名）の連句碑がある。

3 赤城神社

赤城山の土が洪水で流れ着き、高さ10mの山ができた。これが「流山」の地名の発祥伝説である。長さ10m、重さ500kgの大しめ縄を1日でつくる「大しめ縄行事」は市無形民俗文化財に指定されている。

4 一茶双樹記念館

白みりん醸造で財をなした秋元三左衛門の「秋元本家」跡。小林一茶は約15年の間に五代目三左衛門（俳名：双樹）をたびたび訪ね、この地で多くの俳句を残した。安政年間の双樹亭や枯山水の庭、商家を再現し、みりんや俳句関係の資料を展示しており、句会・茶会などにも利用できる。近年、ドラマやCMのロケにも利用されている。

開館時間／午前9時～午後4時30分　**入館料**／一般100円、小・中学生50円
休館日／月曜（祝日の場合翌日）　**電話**／7150－5750 ID 5540

杜のアトリエ黎明

笹岡了一・秋元松子両画伯のアトリエをご遺族から寄贈を受け整備したもの。さまざまな講座や展示会を開催しているほか、市民の方が作品展示などを行うギャラリーとしても利用できる。

開館時間／午前9時～午後4時50分（ギャラリー利用は午後9時まで）
休館日／月曜（祝日の場合翌日）　**入館料**／無料　**電話**／7150－3536 ID 5541

5 長流寺

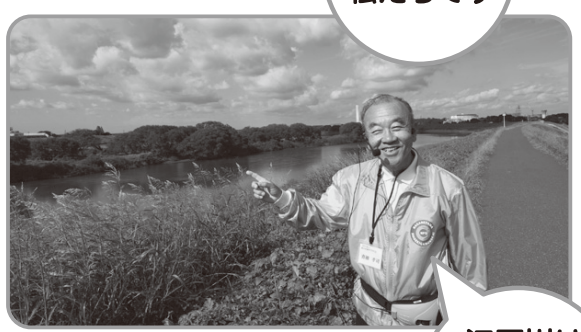
江戸時代初期の創建。新選組隊士らが分宿したといわれ、毎年4月の第1、または第2日曜には「近藤勇忌」が行われる。流山七福神のうち、恵比寿さまを祀る。

6 万華鏡ギャラリー寺田園茶舗見世蔵

明治22年（1889年）に建てられた「寺田園茶舗」が万華鏡ギャラリーとしてオープン。市在住の万華鏡作家中里保子さんの作品展示のほか、観光案内や伝統文化の講習会などを開催している。国登録有形文化財にも登録。

開館時間／午前10時～午後5時
休館日／月・火曜（祝日は開館）
入場料／無料
電話／7103－2817 ID 1857

NPO法人流山史跡ガイドの会
理事長
青柳孝司さん



案内役は私たちです

2～3時間くらいで歩くことができ、見どころも多く、また見どころのポイントとポイントの距離が近い。それが流山本町を歩くコースの魅力的な点です。古い建物を改装した飲食店などもオープンしていますので、歩いた後の楽しみもありますね。

NPO法人流山史跡ガイドの会
ボランティアで流山市内のガイドを行う。場所、時間、人数などを伝えるとコースを組んでくれる。1人からでも利用可。問青柳☎7159－5486

流山市民の足として親しまれている「流鉄」。2両編成の車両には「流馬」「流星」「なの花」「あかぎ」の名がつけられ、ブルーやオレンジなど車両の色も異なる。

流山おおたかの森駅方面からはバスのご利用を

流山おおたかの森駅西口から流山本町へは、流山本町の歴史ある街並みをイメージした京成バスが、35～40分間隔で運行しています。

問京成バス㈱松戸営業所☎047－362－1255
※市内のバス交通については、市ホームページからも確認できます。ID 204

調味料や甘い酒として人気を博した流山の白みりん

流山でみりんが開発・醸造されたのは江戸中期。堀切紋次郎と秋元三左衛門の２人の手により、それぞれ「万上」、「天晴」という商標で、江戸川の舟運を利用して江戸に運ばれました。流山のみりんの特徴は、味がまろやかなこと。調味料や甘くて飲めるみりんとして、江戸の女性に好まれました。

▶流山キッコーマンが特別に造った特選純米本みりんセット。2本セット2,100円、3本セット3,150円。1本（1,050円）でも買える／（株）秋元（10:00～17:30、日曜・祝日定休　☎7159－1111）

不活化ポリオの追加接種（4回目）が接種可能に

不活化ポリオワクチンの追加接種（４回目）は、国内臨床試験により有効性と安全性が確認されたため、10月23日から定期予防接種として実施しています。問保健センター☎7154－0331

切り絵行灯でまちに賑わいを！「行灯回廊プロジェクト」

流山本町（流山1丁目）在住の飯田信義さん（切り絵作家）と長谷部年春さんは、お隣同士の幼なじみ。ともに代々流山本町で商いをしていた家系で、このまちへの思い入れはひときわ強いものがあります。

「このまちの活性化につながることをしたい」と、自身の切り絵を入れた行灯をつくることを飯田さんが相談すれば、「行灯は俺にまかせろ」と長谷部さん。得意の日曜大工の腕を生かして、早速行灯の木枠づくりにとりかかりました。この２人の「あうん」の呼吸、二人三脚で始まった「行灯回廊プロジェクト」。行灯の優しい灯りでまちをともし、このまちの歴史や文化に思いをはせ、それを未来へつなげていきたい。そんな２人の思いは地域の方々の賛同を受け、大きく広がっています。

問商工課流山本町・利根運河ツーリズム推進室☎7150－6085

Interview

切り絵とともに まちの歴史や記憶が甦る

切り絵作家　飯田信義さん

地元に生まれ育って、賑わいをなくしていくまちを見るのが辛かったんですね。なにかこのまちが元気になることをしたいと思い、切り絵行灯を思いついたんです。

切り絵はすべて一つひとつ手づくりです。行灯の注文をいただくと、そこへ出かけていってどんな切り絵にしたいか打ち合わせをします。それはもう皆さんさまざまで、お祖父さんの写真を出してきたり、商売をしていた頃の写真を見せてくれたり。そうなると自然と昔の話になりますね。「美濃源」という屋号の味噌屋さんがあったのですが、これはご先祖が美濃の国からやって来たから「美濃源」というんだそうです。こうした話に出会うと、切り絵づくりはこのまちの歴史や記憶の掘り起こしの作業でもあるのだと、思います。

飯田さんの家はかつて米屋、長谷部さんの家は八百屋だったという

飯田さんの切り絵の原画。浅間神社のお神輿

行灯にはコピーではなく、切り絵の原画をそのままはめこんでいる。光の抜け方に、原画ならではの味わいが生まれる

「行灯の灯りがともるまち」として周知されれば

長谷部年春さん

行灯は古いまちに似合いますよね。切り絵行灯の話を聞いた時「これはいい！」と、ホームセンターに走りました（笑）。というのは冗談ですが、材料費を抑えるため、材料は地元のホームセンターなどでそろえています。木枠の色、中に入れる電球の色、行灯の大きさ、いくつか試作を出して、灯りをともしたときに一番切り絵が美しく見える、今の形になりました。

切り絵には、注文された方それぞれの思いがつまっています。そこに夕方灯りがともると、「すごくいい」と皆さん喜んでくださり、それが制作の励みになっています。丁字屋さんはじめ、古い建物を再生して新しいお店ができ、少しずつ人が来るようになりました。「歴史ある街並みに切り絵行灯がともるまち」として、さらに多くの人に足を運んでほしいです。

聞き書き

流山本町界隈 ⑳

古文書は街の歴史を語る

青木 更吉

流山広小路の新川屋呉服店は、嘉永五年（一八五二）に江戸日本橋の新川口から越してきた。「明治二三年築のこの見世蔵は、平成一六年に国の登録文化財に指定されました」と七代目店主の秋谷光昭さん（七七歳）は語る。

光昭さんが古文書を二点見せてくれた。一点は近火見舞いの文書で、明治四〇年二月六日隣の流山銀行から出火。午後一一時だったが北隣の床屋は貰い火で焼けても、新川屋は土蔵造りだったので下見（板の外壁）だけは焼けたが建物は無事だった。「土蔵はやはり火事に強いのが証明されました。漆喰は二一センチもありましたから」と光昭さん。

もう一点は、「問屋橋架替寄付芳名簿」（昭和五年二月）。問屋橋というのは初めて聞くが、明治三〇年代の街並図では油亀橋だった。架け替えの時に問屋橋にしたらしい。五代目が百円を出して、合計五三〇円の寄付が集まった。「この橋、昭和一七、八年頃まであったようです」と、光昭さんが記憶をたどる。

なぜ問屋橋か。それは、焼けた流山銀行ができる前は廻船問屋（秋谷平兵衛）があったから。布施河岸から駄送されてきた荷は、この加村河岸から再び高瀬船で江戸・東京へ送られたのだ。その廻船問屋は、新川屋の本家にあたる。廻船問屋をやっていたのは、流山銀行ができる前（明治三二年）だった。

問屋橋は小川、つまり今上落としに架かる橋。油亀というのは菅生材木屋の屋号から出たようだ。下流には紙平橋、瀬割橋、八つ橋橋があり、上流には加川橋（富士橋）があった。小川に今でも残っているのは富士橋だけ。それは江戸川と人々の付き合いが疎遠になって、橋も必要なくなったからだろう。

江戸川を大川と呼び、今上落としをコガワと呼んだという。小川の水は洪水によって床上まで浸水したことがあったが、それは富士橋のあたりで、地盤の高い新川屋近辺に水は来なかったという。

このように、二点の古文書は街の歴史を雄弁に語ってくれるのである。

大正３年の新川屋（絵はがきより）舟運に陰りが見え始めた頃だった